

最終レポート

氏名 中江清原テルマ (ブラジル)
研修機関 中国デザイン専門学校
研修内容 天然染織・デザイン

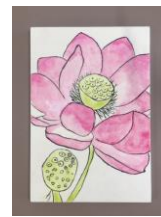
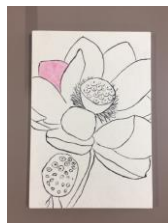


日系3世として、2回目の日本来日、そして再び私のルーツと繋がりをもてることがとても楽しみでした。私とミャンマー出身の医師の研修員は同じ日に岡山に到着しました。岡山での生活についての説明をしてくれたり、生活に馴染もうとする時期に指導をしてくれたり、私たちが必要な時はいつでも助けてくれたりと、私たち研修員は素晴らしい職員の方々にサポートいただき大変恵まれていました。私たちは一緒に来日後のオリエンテーションを受け、岡山の重要な観光地岡山後楽園や岡山県立博物館を訪れました。来日した時は非常に暑い時期

期でしたが、文句の言いようがないほど美しいそれぞれの季節からのおもてなしを受けることもできました。後楽園の美しい花を眺めたり、桃やピオーネを味わったりすることができました。夏の楽しみとして桃太郎祭りもありました。花火やうらじゃ踊りはとても楽しかったです。



まず、岡山日本語センターによる3週間の日本語の個人授業を受けました。先生方は本当に親切で、毎回授業で興味を引く話題を取り上げてくださったので、結果的にいつも楽しく日本語を練習することができ、本当に勉強になりました。毎日宿題として短い日記も書きました。当初は私には不可能に思えたのですが、最終的に新しい単語を調べ、漢字を描く練習にもなったので、とても有効な勉強法でした。3週間の個人授業の後、グループ授業を受けるようになりました。そこでは岡山に住んでいる多くの外国人との出会いもあったので、とても楽しかったです。その他にも、日本文化への理解を広めるためのOPIEFの茶道体験や折り紙体験イベント、親睦を深める岡山日本語センターのバーベキューなど多くのイベントに参加しました。



そして、中国デザイン専門学校での研修が始まりました。研修期間は8月の初めから10月中旬まで、およそ2ヵ月半でした。始めに、デザイン一般に関わる様々な講義を受講しました。今までに経験したことがないことができたので、大変おもしろかったです。絵画の先生は、スケッチや顔料の準備、薄い金箔を色の上にのせるなどの日本画のテクニックを教えてくださいました。伝統的な日本画のテクニックを学ぶことがとても楽しかったです。このような経験から、今後美術館や本などで日本の絵画を鑑賞するときには、より一層その価値を正しく認識して理解することが出来ると思います。



また、建築の先生の授業も受講し、とても細かい家具などを備え付けた部屋の模型を制作しました。細かい作業が好きなので、楽しく作業することが出来ました。

東京の有名なファッションイラストレーターが、講義のために来られ、私もいくつか参加することが出来ました。講師からは、パステルチョークですばやくスケッチをする方法を学びました。基本的には画法はブラジルのものと同じですが、どのようにデザインするか、どのようにメッセージを表現するかなどの点で、描く人の文化的背景の影響を受けていることを知り、とても興味深く感じました。私のイラストは、私自身からすると、他の学生のものとはよく似ていると感じましたが、他の学生は少し感心した様子で、「このイラストは外国人が書いたとよく分かる」と言っていました。



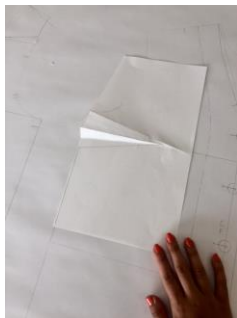
裁縫の授業では、デニムシャツ、トートバッグ、筆箱、デニムパンツを制作することができました。デニム生地を実際に縫ったのは初めての体験で、薄い生地とは違った制作工程を理解することができたことは大変勉強になりました。また、完成させるのに約10種類の機械を使用していると知ることができ、大変勉強になりました。デニムのパンツ制作の中でもっとも興味深い工程は、デニムがあまりに分厚くミシンが通らないときには、金槌で生地をたたくところです。例えば、ただボタンの穴をあけるためだけでも、機械が1つ必要です。それから、いくつかのパーツをひとつに縫い付けるために、同時に縫うことが出来る2本の針を装着している別の機械が必要です。また、ベルトを通す部分を折るだけの役割に他の機会が必要です。それらはとても興味深かったです。そして、最後に私が制作したこれらのパンツは学園祭のとき展示されました。





トートバッグは岡山の帆布、児島のジーンズで制作し、まさに地産の作品です。

パターンメイキングの講義も受講しました。それはとても細かい作業で、描いているパターンのミリ単位にまで注意を払わなければいけません。通常はミシンを使って縫い合わせますが、今回はトルソーに針を打ちながら縫う練習をしました。新しいことを学び、より上達するために全ての工程がとても貴重な体験でした。裁断、アイロンがけ、ピン打ちなど、既に知っているような普通の工程に思えますが、先生はよりよい作品ができるようにいつもちょっとした秘訣を教えてくださいました。



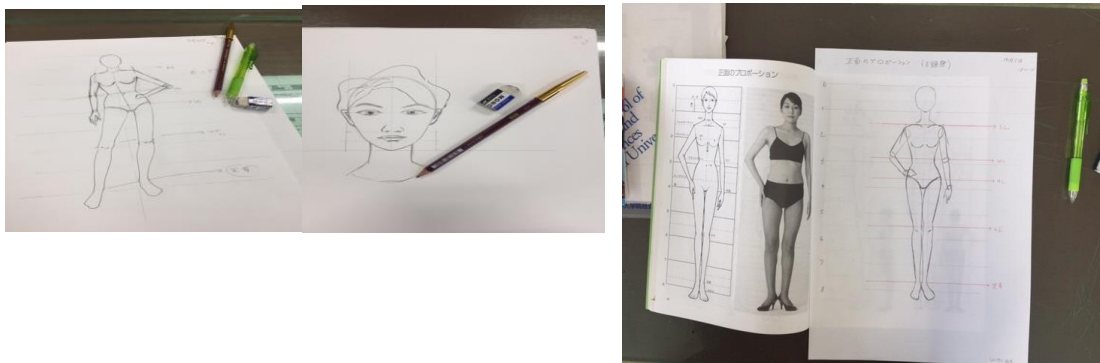
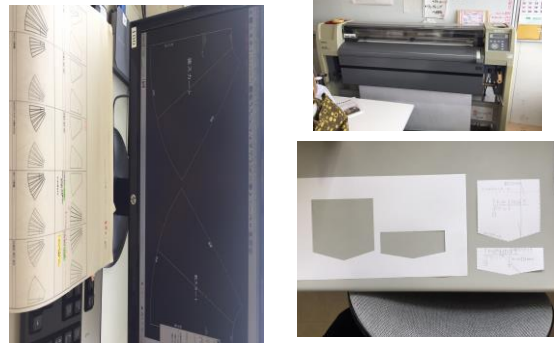
また、製品デザインを専攻している学生達と一緒に講義に参加しました。その講義で私に割り当てられた課題は、木製のスプーン制作でした。最初、スプーンのカーブをつくるのがとても難しかったので、完成することが出来ないのではと思っていました。ですが、最後の講義までに研磨することで、だんだんとスプーンのような形に見えてきました。最終的には完成させることができ、とてもうれしかったです。

コンピュータの講義では、教科書は全部日本語で書かれていたので、当初は理解するのがとても難しいと思いました。幸運なことに、先生がとても親切で、とても忍耐強い方でした。教科書には、スクリーンの印刷画像が載っていてとても複雑でした。本物と



同じ大きさの型用の日本のソフトウェアを使って、ポケットの型とスカートの型を描きました。1番興味深かったのは、先生がプリンターに転送した時に、すでに切り目が入られていたポケットの型が数秒で印刷されたことです。とても手軽です。

ファッションデザインの授業で、顔や体のプロポーションデッサンの練習をしました。とても興味深く、ブラジルでかつて描いていた技法と非常に似ていました。



学校での講義の他にも、先生達と一緒に市外へ視察に行きました。ある日、児島の Betty Smith の工場を訪れました。このメーカーは岡山でも最も規模の大きなジーンズメーカーの1つであり、この分野ではとても伝統のある工場の1つでもあります。デザイン事務所、ミシン、洗浄、石でダメージをつける作業までジーンズ制作の全ての工程を見学することが出来ました。残念ながら工場内での写真撮影は許可されませんでした。

また2回目に児島を訪れた時、児島ジーンズホールでの学生ファッションショーを見学しました。日本中の学生がコンテストに申込みことができ、中国デザイン専門学校の学生が選出されました。皆さんとても協力的で、ショーはとてもすばらしかったです。



別の日には倉敷に行く機会があり、岡山ファッションスクールの学生の展示会を訪れることができました。その後、多くの岡山産のデニムや工芸品のお店を数件訪れました。



また、長船先生と直島を訪れる機会にも恵まれました。直島は素晴らしく、安藤忠雄の数々の魅力的な建築作品や、有名な草間弥生の多くの作品を鑑賞することができました。

ペルー、ネパール、そして中国から他の研修員が岡山に到着し、研修員と長船先生とともに伊原木隆太岡山県知事を表敬訪問しました。私たちは研修プログラムについて少し説明し、このような機会を与えてくださったことへの感謝の気持ちを伝えました。



研修以外では、岡山県に再び来ることで、日本にいる親戚に会う機会を与えてもらうことになりました。私の祖父がブラジルに移住する前に幼少期を過ごした津山の生家を訪れました。それは私にとってとても大切なことで、可能な限り長く関係を続け、ブラジルと日本との間に架け橋が築けることを祈っています。



また、研修員や、視察旅行や皆で集まる時の担当職員との時間がとても楽しかったことにも触れたいと思います。勝山の暖簾、備前市での備前焼、犬島アートプロジェクトの歴史背景など、岡山について多くのことを共に学びました。瀬戸内海は息をのむような美しい場所です。友人にもこの地域に来るよう勧めたいと思います。岡山の方は皆優しく接してくれました。学校の先生や同級生や職員の方々皆親切で、どんな時でも助けてくださいました。



岡山県、岡山県国際交流協会の方々も私が来日したその日から、とてもあたたかく親切にいただきました。寒く雨の日でさえ、「晴れの国岡山」だと思わせてくれるような多くの方にお会いできました。

今年、このプログラムに参加する機会に恵まれ、本当に感謝しており、私の感謝を言葉で表すことができません。ブラジルで人々に私の経験を伝えることを楽しみにしています。帰国後は、日本語学習や、ニットや手工芸のようなハンドメイドの衣服制作を続けようと思っています。また、日本とブラジルの友好に関係した仕事にも関わりたいです。岡山県、中国デザイン専門学校にもこのような経験と、ここに来て学ぶ機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。

